

かえるのあまがさ

童心社 与田純一 おはなしえほん 年長児かな

与田純一 作 那須良輔 画

【あらすじ】

おいけの あめふり

ぴち ぱた ぽん

かえるが おみせを だした とさ

かえるがあまがさ うったとさ

かえるがあまがさ かったとさ

かえるはあまがさ さすもんか

いやいや はっぱのあまがさ…

たにしがうわさをきいたとさ

どじょうがたにしにきいたとさ

はっぱのあまがさをさしたかえるが、お池の周り、畑の小道がある
き、畑のキュウリやとまとがうれしそうにながめている

はっぱのあまがさをさしたかえるのぎょうれつがつづく。



【めもめも】

与田純一は詩人。 詩の形式になっているが、そのテンポ、リズム
がおもしろい。雨の大好きなかえるが傘を売ったり、買ったり。傘を
持って行列をなす絵に「あめふれ あめふれ ぴち ぱた ぽん」昔話のような絵のタッチであるが、優しい絵。

小学校の教科書にも載ったそうです。5歳児がよいかも。

何度も読んで、味わいを感じる絵本です。

うさぎぐみとこぐまぐみ

ポプラ社 かこさとし こころのほん1

かこさとし 絵／文

【あらすじ】

しんまちほいくえんには、小さいクラスのうさぎぐみと大きいクラスのこぐまぐみがある。そのうさぎぐみとこぐまぐみが

けんかをする時がある

けんかになるとお互いに悪口を言う。

やせたたなか先生はこえがやさしく、

こぐまぐみのあいざわせんせいが

「こらっ」てどなる。

ふとったあいざわ先生はこわい。

こぐまぐみには強い子が3人。

からだが大きいトシちゃん。すばしっこいいたずらなカズちゃん。



先生もいろいろ。背の高いセイちゃん。母子家庭の子、兄弟が障害児の子。ダウン症の子。子どももいろいろ。

子ども達が互いに理解しあい、思いあって保育園を過ごしている。

【めもめも】

1980年発行。かこさとしの作品で、当時「障害のある子」「ダウン症」「母子家庭」を取り上げる作品は珍しいのでは。現在、インクルーシブと言われているが、いつの時代も人の考え方次第ということが読んで感じる。子どもたちというより、大人に読んでもらいたい古本屋さんでみつけました。

めっきらもっきら どおん どん

福音館書店 3歳から

長谷川 暲子 作 ふりや なな 画



【あらすじ】

せっかくあそびに出かけたかんた。

どこに行っても誰もいないから大声でめっけや、めっけや、めっけやとつた「ちんぷく まんぷく あっぺらこの きんぴらこ じょんがら ぴこたこ めっきらもっきら どおんどん」…すると、

穴の中から変な声が。のぞきこんだかんたは穴のなかへドスン。

夜の山についたが、むこうからへんてこな3人。なんとおばけの3人が。かんたと遊びたくておばけ3人がけんかをする。

誰と遊ぶ??。

みんなで遊んだりお餅を食べたりして、おばけは疲れて眠ったけれど、かんたはなんだか寂しくなった。我慢できずに「お・か・あ…」

さあ、どうなったかな？

【めもめも】

子ども達は怖いけれどお化けの話が大好き。現実と空想の世界を理解できる4歳後半から楽しめそう。お化けとはいえ、その顔はどこことなくかわいらしさもあり、「恐怖」にはならない。「ちんぷく まんぷく」という呪文のような歌は楽しさもあり、子どもはすぐに覚えてしまう。ことば遊びにもなる絵本。かんたの「おかあ…」で目を覚ました時のお化けの慌てた感じがちょっとびっくり。

やっぱり「おかあさん」が大好きだね。

くいしんぼうのはなこさん

福音館書店 4歳から

いしいももこ 文 なかにしちよこ 絵

【あらすじ】

わがままで欲張りな子牛
からだも大きく、勝負に勝ち抜いた子
ある日、お百姓さんがもってきた
カボチャやおいもを
他の牛の分まで食べてしまった。
ところが、次の日にからだ
フーセンみたいな大きく膨らんだ



あらあら大変。欲張りな子牛はどうなったのかな？

【めもめも】

いばりんぼうの子牛だけれど、ほかの牛ははなこのことを心配してくれて、温かい気持ちになる。

優しい色使い、タッチで自分勝手の子牛のお話だが、優しい絵本。イメージしやすい内容で、わかりやすい文章表現でもあり、お話としては起承転結がわかりやすい。3～4歳はちょうどよい。

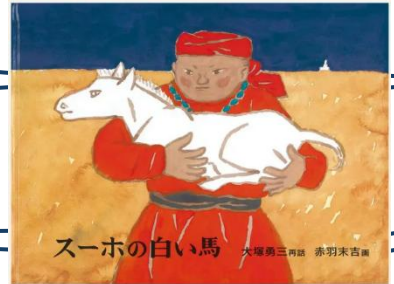
欲張るとこんなことになるよ…というお話だけれど、難しく道徳的なことは伝える必要はなし。

最後はちゃんとみんなと一緒に…よかったね。

スーホの白い馬

福音館書店 モンゴル民話 4歳から

大塚勇三 再話 赤羽末吉 画



【あらすじ】

モンゴルの草原に、スーホという貧しいながらも心優しい少年が住んでいました。ある日、スーホは倒れていた白い子馬を拾い大事に育てました。

月日が経ち、子馬だった白馬は立派な大人の馬に成長しました。ある日、モンゴルの殿が娘の結婚相手を探すための競馬大会が開かれることになり、スーホも白馬とともに大会に参加しました。スーホは見事優勝したのですが、殿は貧しいスーホと娘を結婚させず、スーホに銀貨を渡し、その美しい白馬を奪い取りました。

スーホは毎日悲しみに暮れていました。白馬もスーホに会いたいという思いから殿を振り落とし、逃げ出しました。

逃げ出した白馬めがけて家来たちが弓矢を撃ったため、白馬の体には何本もの弓矢が射られた状態でスーホの家まで帰ってきました。

スーホに抱きしめられながら、白馬は死んでしまいました。

ある晩スーホの夢に白馬が現れ…。

【めもめも】

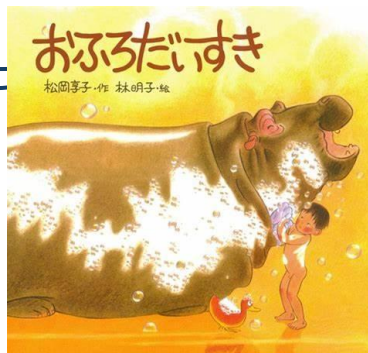
別れは悲しいけれど、どんな形であってもずっとそばにいることはできる。愛情深いお話。何度も読むことで子どものお話へ理解が深まる。

何度も読み聞かせてあげたいお話。教科書にも載っているお話。

おふろだいすき

福音館書店 4歳から

松岡享子 作 林 朋子 絵



【あらすじ】

男の子のまこちゃんがひとりで
おふろに入る。おふろに入るときは、
いつもあひるのおもちゃ、
プッカを連れて行きます。

まこちゃんもプッカもおふろが大好き。

まこちゃんが体を洗っていると、おふろの底からざあーとおおきな
かめが浮いてきました。続いてぺんぎん、あしか、かば、そしてな
んとくじらまで！みんなで体を洗って、肩までつかって50かぞえます。

すると・・・

【めもめも】

4歳をすぎてそろそろ自分の体を洗ったり、頭を洗ったりできるかな??

一人で入るとちょっと大きい子になった気分がうれしいけれど、やっぱりおかあさんといっしょがいいね。

でも、「おふろって楽しそう」…そんな気持ちになれそうな絵本。

想像の世界を楽しみ、「50」とともに現実の世界へ。「頑張ったね」のご褒美のようにお母さんが広げたタオルにくるまれて、安心と満足感にみたされる絵本です。

